



かがみちゃん

信州の遺跡

第3号

今回は近年刊行された3冊の報告書からその成果を紹介いたします。また発掘作業や整理作業が進んでいる遺跡のホットな情報、文化財の公開や活用に工夫をこらしている博物館の取り組みなども取り上げてみました。

最新報告書から1

せんた 千田遺跡（中野市）

縄文中期の環状集落

千田遺跡は中野市（旧豊田村）豊津にあるJR飯山線替佐駅付近から、千曲川の間広がる遺跡です。築堤事業に伴って千曲川べり50,000㎡ほどの面積を発掘調査し、縄文・弥生・古墳時代、中・近世まで、地点によって時期の異なるさまざまな成果がありました。

最大の成果は、縄文時代中期の大規模な環状集落の内容を明らかにしたことです。外径約90mの環状集落の南側半分ほどを調査し、縄文中期中葉から後葉にかけて営まれた、50軒を超える竪穴

住居跡（約5,000年前）を発掘しました。集落は中期後葉期に最盛期を迎え、竪穴住居跡にはベッド状遺構やコの字形炉など、新潟県に特徴的な内部施設を備えたものが多数みられました。一方、中期終末に近い時期には住居跡は減少し、祭祀的な性格を持つと考えられる配石遺構が築造されました。

バラエティーある土器群と石鏃の製作

縄文中期中葉期の土器には新潟県上越・中越地方の火焰型・王冠型土器をはじめ、東信地方から群馬県に多くみられる土器、中・南信地方の土器、東北地方南部の土器、北陸地方の土器もみられ、非常にバラエティー豊かです。

中期後葉期には枳倉式土器と呼ばれる、立体的な渦巻文や突起など装飾豊かな中・小形土



約5,000年前、北信と新潟県の土器はよく似ていたのよ!!



かがみちゃん

縄文中期後葉の枳倉式土器（前2列）と、圧痕隆帯文土器（後列）（8区SB41竪穴住居跡出土）



火焰型土器（高さ 10.8cm）
深鉢形土器の口辺部のみ残存している。



石鏃（右上：長さ 3.4cm）
さまざまな石材で作られている。



縄文中・後期の土偶（左上：高さ 14cm）
完形の土偶はなく、バラバラになった破片が大半である。

器と、平口縁に粘土紐がめぐる大形土器である
あつこんりゆうたいもん 圧痕隆帯文土器がセットになって煮炊き、貯蔵
の器に用いました。柝倉式土器は新潟県の土器と
いわれてきましたが、千田遺跡から大量に出土し
たことにより、むしろ北信地方が分布の中心と考
えられるようになりました。ここから新潟県側や
東信・中信・南信地方へ伝わり、各地の土器に影
響を与えた可能性があります。

石器は 3,300 点を数え、せきぞく 石鏃、スクレイパー、
打製石斧、くほみいし 凹石などが多数を占めます。特に未成
品を含む石鏃 854 点は、中期集落としては桁はず
れに多く、安山岩、頁岩、チャートなど千曲川の
河原にある豊富な石材が利用されています。大河
川に面した千田遺跡の、モノづくりの拠点という
集落の一面を物語っています。

豊富な土偶

環状集落の中心部では縄文中期の土偶が 190
点、調査区全体では後期の土偶を含めて 232 点が
出土しました。1 遺跡の出土数としては後晩期の
松本市エリ穴遺跡に次いで県内で 2 番目、中期に

限れば最多数です。青森県さんないまるやま三内丸山遺跡や山梨県
しやかどう 釈迦堂遺跡とは開きがあるものの、全国的にも相
当上位に位置します。

土偶の形は平板状の胴体に短い脚をつけるか、
脚のないもので、北陸地方・新潟県などと共通し
ます。中・南信地方の厚みがある出尻土偶とは異
なる、北信地方の特徴としてとらえられます。

信越の境を越えて

千田遺跡の調査で、住居のつくり方や土器の特
徴から、信越県境を越える文化圏が形成されてい
たことが、明らかになりました。多数の石器や土
偶が出土したことも、千曲川＝信濃川が古く縄文
時代からモノが行き来していたことを反映してい
るのでしょう。

千田遺跡のムラは河川を行きかう人びとの活
発な交流の姿を想像させます。

（長野県埋蔵文化財センター 綿田弘実）

2013『中野市千田遺跡 千曲川替佐・柳沢築堤事業関連埋蔵文
化財発掘調査報告書—中野市内その1—』長野県埋蔵文化財セ
ンター

よこたふるやしき
横田古屋敷遺跡（松本市）

遺跡の立地

横田古屋敷遺跡は松本市街の北東、元町2丁目の一帯に所在し、女鳥羽川に流れ込む湯川という小河川の右岸に立地する弥生時代の遺跡です。

昭和57年の下水道敷設工事に伴って多量の弥生土器が出土したことから注目されるようになりました。発掘調査は平成9年と同20年に行われました。調査面積は合計しても463㎡という小規模なものです。弥生中期後半と後期（約1,900年前）の竪穴建物跡7軒、掘立柱建物跡1棟、平地式建物跡1軒、墓坑4基などが発見されました。

礫床木棺墓の発見

平成9年の第1次調査の際に礫床木棺墓が4基まわって発見されました。特に墓4は、墓坑もその周辺の礫の範囲も他よりかなり広く大形であった上、墓の中央部には、周囲の礫とは明確に異なる巨礫5点が置かれていて墓標と推測されました。墓1～3の礫間に弥生時代中期後半～終末の土器の大形破片が多数含まれていたことから、その頃に構築されたと考えられます。

各墓坑からは焼けた骨片が出土しましたが、特に墓4の埋土をふるいにかけて水洗したところ、約2kgも回収できました。専門家の分析の

結果、すべて焼かれた人骨で、小児・壮年・熟年など3人以上の頭蓋骨を含む身体各部の骨があることが判明しました。しかも骨の特徴から、火葬ではなく、白骨化してから焼いたとの非常に注目すべき事実も指摘されています。

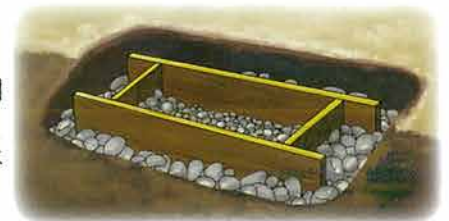
遺跡の再評価

松本地域で礫床木棺墓が初めて発見されたのは昭和63年に行われた宮沢本村遺跡第3次調査の6基です。報告書には、土坑底面に径2～3cmの円礫が敷き詰めるように集められていたこと、その直上の堆積土から人骨が出土したこと、残りのよい土坑では人骨の上にその場で熱を受けて割れた径20cm大の礫が集めてあったことが記され、従来の研究で知られていた墓とは異なる埋葬方法として注目されました。この後、長野市松原遺跡などの調査を経て『礫床木棺墓』の存在や名称が認知されていく中で、横田古屋敷例は報告書の刊行が遅れたため、注目されずにいました。

本報告の刊行により、礫床木棺墓の研究にさらなる新事例が加わりました。木棺墓から複数の焼骨が出土するという特異な状況が、松本地域に限った特徴なのかどうか、今後も検討を続けていきます。

（松本市教育委員会 直井雅尚）

2012『松本市文化財調査報告No.209 横田古屋敷遺跡－第1・2次発掘調査報告書－』 松本市教育委員会



礫床木棺墓想像図
長方形の穴を掘り、小さな礫を敷き並べて棺をすえている。



礫床木棺墓の位置関係
（礫をとり除いた状態）



礫床木棺墓（墓4）の礫検出状況（北から）（墓坑周囲の礫の範囲2.8×2.1m）

こうじんやま

荒神山おんまわし遺跡 (辰野町)

南信初、鉄釧の発見

荒神山おんまわし遺跡は、辰野町の中央部付近に立地する荒神山の南側の段丘上に広がりを持ち、縄文時代早期から平安時代までの複数の時代にわたって遺構が検出された、いわゆる複合遺跡です。中でも弥生時代の遺構ではそれまで住居跡が中心であった周辺遺跡の調査成果に対して、ほうけいしゅうこうぼ方形周溝墓が16基発見され、集落と墓域の位置関係のわかる重要な遺跡として注目されます。平成元～3年度の調査では、第2号方形周溝墓から、くしろ鉄製の釧の破片がみつかりました。これは細長い鉄板らせんに巻き上げた形と考えられます。鉄釧は東北信を中心とした、いわゆる千曲川水系で多数出土していますが、天竜川水系である南信では初の出土例となりました。

釧の出土は、周溝墓に埋葬された人物が、この付近のムラを治めていたことを象徴する遺物であると共に、文化圏の異なる地域とのつながりをも示唆しています。

また、墓と同時期とみられる弥生時代後期(約1,900年前)の住居跡は8軒検出され、なかでも、第26号住居跡は火災住居と考えられ、炭化材や焼土が残り、それらの下層から器形の判明する土器が出土しています。



弥生時代後期の方形周溝墓のようす

出土した遺物は、かめ甕や壺の破片、いしぼうちよう石包丁等であり、特に甕は丁寧なミガキ調整がみられる精製の小形土器と、ミガキ調整がほとんど確認できない粗製の中形土器で、セットで発見されています。

さて、本遺跡の位置する樋口地区には、東部山麓から流れ下る小河川によって形成された湿地帯が存在しており、これを取り囲むように弥生時代後期の遺跡が分布しています。低地に立地する本遺跡や樋口五反田遺跡からは石包丁以外の磨製石器は出土していませんが、湿地東側の高台にある樋口内城遺跡では、けつにゆうちゆうじようかたばせきふ挟入柱状片刃石斧などの大陸系磨製石器や、ひぐち有孔磨製石鏃が出土しています。同時期におけるムラの役割の違いも想像されます。

本遺跡の調査によって、この地域の弥生時代の様相を解明する資料が、ようやく整ってきたといえます。

(辰野町教育委員会 福島 永)

2012『団体営土地改良総合整備事業樋口地区に先立つ緊急発掘調査 荒神山おんまわし遺跡』辰野町教育委員会



弥生時代後期の鉄釧(幅約1.4cm)



鉄釧をつけた女性
想像図

(『佐久の古代遺跡図鑑』を参考に作成)



弥生時代後期の
火災にあった住居の甕出土状況

掘ってわかった信州の歴史

長野県の遺跡発掘 2013 開催される

長野県埋蔵文化財センター設立30周年企画展として、これまでに発掘調査した代表的な資料を、長野県立歴史館（3月16日～6月2日）と伊那文化会館（7月13日～8月4日）で一堂に公開しました。

会期前半には縄文時代の食文化について渡辺 誠名古屋大学名誉教授、後半には出土木製品について山田昌久首都大学東京教授の講演会を開催し、企画展を盛り上げました。

長野県立歴史館会場



中野市栗林遺跡から出土した水さらし場遺構の実物復元展示。クリの巨木を加工し、木の実のアク抜きなどに利用したものを。

伊那文化会館会場



千曲市社宮司遺跡の長野県宝六角宝幢を熱心に見る来館者。

埋文キーワード 土器の復元

長野県埋蔵文化財センターの主な仕事を毎号紹介します。今回は文化財の公開活用のために大切な土器の復元について取り上げました。



石膏を入れるための型取り作業

土器は、通常壊れた状態で遺跡から出土します。そのため、土器の図を描いたり展示をおこなうためには、復元作業が必要になります。

まず破片をつなぎ合わせ、接着します。次に、足りない部分を型で作り、水に溶いた石膏で補っていきます。石膏が固まったら表面を削り、平滑にして仕上げます。石膏の上から土器に似た色を塗って、完成です。

わしも復元してもらって、よみがえったのじゃ～



ドキシロー

氷河時代の世界を体験

—博物館ミニ講座—

野尻湖ナウマンゾウ博物館

Tel.026-258-2090



夏休みの博物館ミニ講座は、この時期小学生を含む家族連れが多いことから、当館最大の人気メニューとなっています。「石器づくり」、「火山灰の鉱物しらべ」、「昆虫化石さがし」、「アジアゾウの骨をしらべよう」、という4講座を日ごとに交代で実施しました。予約不要、無料で体験ができるという企画なので、毎年16日間、全国から訪れる1,100人以上の子供たちが体験しています。運営には学芸員と博物館実習生があたっており、来館者の疑問や思いにじかに接することができる貴重な場ともなっています。

(野尻湖ナウマンゾウ博物館 中村由克)

古代人を身近に思えるきっかけに

—博物館の出前授業—

飯田市上郷考古博物館

Tel.0265-53-3755

小学6年生の歴史学習は、原始古代から始められるようで、4月・5月は小学生との関わりがよくあります。子どもたちは、土中に埋もれている土器や石器など、古代人が残したものに囲まれて生活していることをあまり意識していません。

そこで、学びのひとつとして、各小学校区内で発掘調査された住居跡や現存している古墳・城跡の時代別分布図を作成し、学校の位置・自分の家・通学路をチェックさせた後、時代別に色分けする活動を取り入れました。

「家の近くに縄文人の家があった。」、「毎日の登下校時に見ていたのは古墳だった。」などの感想

がありました。中には、「分布図を片手に休日遺跡に行ってみた。」とのうれしい声も聞かれました。古代人を身近に思えるきっかけになることと信じています。(上郷考古博物館 市澤英利)



分布図で色分けする子どもたち

まつりを通して縄文を体感

—高原の縄文王国収穫祭—

井戸尻考古館(富士見町)

Tel.0266-64-2044

ゆったりと裾野をながす八ヶ岳。その南の麓に井戸尻遺跡があります。秀麗な富士と南アルプスのぞを望むこの地域には、数多くの縄文集落が埋もれています。

空の澄んだ秋の一日、各地から参加者が集まり、史跡公園の広場には歴史や文化を紹介・体験するワークショップが開かれます。貫頭衣に身を包んだ参加者は、石器で雑穀を収穫したり、再現された古代の食事に舌つづみを打ったりと、思い思いに縄文を体感することができます。

そして西に傾いた陽がやさしい影をつくるころ、考古館スタッフにより縄文の神話世界が再現され、土器の文様や土偶の姿から創作された「く

く舞」が奉納されます。遺跡と人の心がひとつになる収穫のまつりです。

なお今年は10月20日(日)におこなう予定です。



(井戸尻考古館 小松隆史)

埋文ほっと情報

だいずた 佐久市 大豆田遺跡Ⅳ 所在地：佐久市長土呂

すぼうばた
周防畑遺跡群大豆田遺跡Ⅳは佐久市北西部の
ながとろ 長土呂地籍に所在します。たぎり 田切台地が沖積低地へ
と接する部分に位置し、標高703m前後です。

今回、佐久市北部新小学校建設に伴い15,132㎡
を発掘調査しました。その結果、北側の台地から
続く弥生時代後期、奈良・平安時代、中世の集落
跡が検出されました。このうち弥生時代後期の遺
構は、住居跡が検出された集落域と生産域と考え
られる低地部分に別れ、その境界付近には土手状
の盛土を伴う溝が検出されました。この溝に沿っ
て多量の土器片が出土するエリアが確認され、そ
こからは赤彩された壺・高坏・鉢等が意図的に
はさい 破碎された状態で出土し、土器片に混じってひすい
翡翠製勾玉や管玉が出土しました。今後、長野盆地の
祭祀の事例などとの比較検討を通じて、この場所

で何がおこなわれたのか探っていきたいと思いま
す。また、この他に注目される出土資料として古
代の軒丸瓦のきまるがわらがあります。瓦は1/4が残存していま
すが、模様は復弁の蓮華文ふくべん れんげもんと推定できます。中部
横断道の調査で出土した軒丸瓦などととも飛鳥
時代の寺院との関係も注目されます。

(佐久市教育委員会 富沢一明)



弥生時代の溝状遺構の土手の検出状況（東から）



古代の軒丸瓦(幅6.8cm)



かわらでらそうげん
川原寺創建軒丸瓦 拓本

(奈良文化財研究所 2004
『川原寺寺域北限の調査』より)



かがみちゃん

このような瓦の
一部です。

しおぎき 長野市 塩崎遺跡群 所在地：長野市塩崎

塩崎遺跡群は長野市南部、千曲川左岸の自然
堤防上に位置する弥生時代から中世までの複合遺
跡です。住居跡はみつかっていませんが縄文時代
晩期の土器が出土していることから、その時期か
らこの地に人々がいたと思われます。

バイパス建設に伴う今回の調査では、かつて
住居跡が大量に発見され、また弥生時代中期の木
棺墓が発見された地点の付近が対象です。4月の
調査開始以降、約3分の1表土を剥いだ時点で弥
生時代から平安時代までの約50軒の住居跡が重
なってみつかっており、今年度全体では100軒以



調査区の遠景 住居跡が自然堤防上の微高地にひしめき合
うように見つかりました。

上に上ると予想されます。

今回は、千曲川側から生産域である石川条里
遺跡に向け、微高地を横断する形での調査になる
ため、集落の境の状況や水田域との位置関係がよ
り具体的に見えてくるものと大いに期待されます。

(長野県埋蔵文化財センター 前田一也)



南佐久郡佐久穂町
まりくぼ
満り久保遺跡
2013.4.18～2013.6.10 調査
長野県埋蔵文化財センター

●平成21年度の調査で尖頭器・細石刃核・剥片等の旧石器3,200点以上が出土した本遺跡で尖頭器・細石刃・細石刃核等が新たに出土。



小県郡長和町和田
わだとうげ
和田峠遺跡群 (広原遺跡群)
2013.4.19～2013.5.31 調査
明治大学黒曜石研究センター

●旧石器時代の黒曜石集石や石器1,551点、礫161点ほかが出土し、旧石器時代の遺物の平面的、垂直分布的な広がりを確認できた。



飯田市座光寺
ごんが
恒川遺跡群新屋敷地籍
2012.6.20～2013.1.7 調査
飯田市教育委員会

●伊那郡橋の郡庁跡確認を目的とした学術調査で、以前に調査された正倉もしくは厨家と同一主軸方向の8世紀の掘立柱建物跡を確認。



考古学の窓

～古代の土器作りと粘土採掘～

中野市沢田鍋土遺跡^{さわだなべつち}ではこれまでの発掘調査で、縄文時代・古墳時代・平安時代・中世の粘土採掘跡が発見されました。鍋土^{あぎめい}という字名は、土器を作る粘土が採れる場所に由来した地名なのでしょう。長野県内では、現在までに十数遺跡で粘土採掘跡がみつかっています。今のところ県内最古の事例も本遺跡の縄文時代中期のものです。

これらの粘土採掘をおこなった人たちの集落はどこにあったのでしょうか。縄文時代中・後期で最も近い遺跡は、北東約2kmの栗林遺跡の集落跡で、粘土採掘跡出土土器と似た土器もみつかっています。海外の民族例によると粘土はムラから2km以内で採られるケースが多いことから沢田鍋土で採った粘土を栗林ムラまで持っていき土器を作った可能性があります。

また、沢田鍋土遺跡からは、須恵器などを製作した奈良時代の工房跡がみつかっています。粘土採掘跡は100mほど離れた地点にあり、そのす

ぐそばに、須恵器を焼いた窯跡があります。このことから、奈良時代には粘土が採れる場所の近くで、土器を作り、焼いていたことがわかりました。



外国には土器作りを専門としているムラがあります。本遺跡で粘土採掘のあり方を探ることによって、古代のムラでの土器作りの実態解明が進むと期待されます。

沢田鍋土遺跡周辺では、昭和まで地元の粘土を使った瓦窯が操業されていました。古代から現代まで、粘土の取れる場所として知られていたようです。(長野県埋蔵文化財センター 鶴田典昭)

長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

〒380-8570 長野市南長野字幅下 692-2
TEL 026-235-7441 FAX 026-235-7493
メール bunsho@pref.nagano.lg.jp

(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
http://naganomaibun.or.jp/

印刷：奥山印刷工業株式会社